

# 豊南小学校・校長室だより

平成 29 年 (2017 年) 5 月 8 日  
発行者 西山 博章

第 8 号  
(通算 94 号)

児童数配布



## 長い連休があげました。ね… そして、今日から家庭訪問です！

久しぶりの『月曜日』という言い方が当てはまるのではないのでしょうか？ 前号の便りを書いたのが、ほぼ 1 週間前の火曜日。夏休みなどの長期休業中を除いてこれだけまとまって子どもたちが学校を離れることはめったにありません。もう遠い昔(?)のような気がするのは私だけでしょうか？

この間、子どもたちは家でどのように時間を過ごしていたのでしょうか？ 一見すると、(親からすれば) 毎日、毎日何かだたらと過ごしていたように感じるかもしれません。しかし、一見、この『無駄』と思える時間が大切で必要なものだと思っています。普段は、朝から授業がありますから、子どもたちはいやおうなく、朝決まった時間に起きて、とりあえず登校し、一日の大半を学校、クラスで過ごします。その中で、日々友だちや先生たちと様々な経験をして、時には喜び、時には悲しみ、或いは怒り、… こういったことを重ねていく中で『成長』していくものだと思います。

しかし、こういった経験は大切ですが、『振り返る』ことなく、日々が重なって、経験だけがどんどん積み重なっていくと、ときには心が疲れてくることがあります。

前に、家庭学習のことを書いたとき、「定着」が必要で、それには一定の「醸成する時間」が必要だということを書いたことがあります。これは、何も「学習」だけに限ったことではありません。子どもだけに限りません私たち大人もふくめてですが、毎日、いろいろな経験を積み重ねていくなかで、その経験を、ちょっと「息をぬいて」改めて想いおこすことで、「経験」したことの意味が見えてくること、わかってくることがあります。経験したことからのステップに踏み出せるのです。そうすることができてはじめて「経験」が生きてくるのです。

1 週間には、必ず土曜、日曜があります。子どもたちは、必ず 1 週間の中で、毎日、目まぐるしく経験してきたことを『振り返る』時間を必ずとることができるのです。まして、長期にわたって自由な時間がとれるときならなお更です。一見「無駄」と思えるような時間の使い方をしている、その中で、ふとそれまでに経験してきたことの意味が鮮明に見えてくる瞬間があるのです。それが、自己の成長には最も必要で大切なことなのです。

きっと、この連休の間に、程度の差こそあれ、これまで 4 月始業式はじまってから、忙しく過ごしてきた 1 ヶ月をじっくりと『振り返る』ことができたと思っています。

そして、この連休から後が、1 学期の後半で、いよいよ本格的に新しい学年、クラスがはじまっていくのです。

行事で言えば、今日から「家庭訪問週間」となり、木曜までは午前中授業で、午後は、それぞれの担任の先生はお家に行かせていただきます。時間にして、そんなに長く時間はとれませんが、取りあえず、一人ひとりのお家の方と顔をあわせてお話しできる貴重な機会だと思っています。今回限りではなく、これを機会に、この 1 年、子どもたちのことでいつでも本音で担任の先生と話しができるような関係をつくる一助となればと願っています。

お忙しい中ですが、どうかよろしくお願ひいたします！！

## ☆☆☆AAE(動物介在教育続き) ※次号で実際にAAE犬として活動してもらう予定の犬の紹介をします！

今日、全校朝会があったので、子どもたちに「動物」が好きかどうかを尋ねました。すると大方の子どもたちが元氣よく手をあげてくれました。つぎに、家でウサギとか、カメとか、魚とか、ネコとか、犬を飼っている人は？と尋ねると、これもずいぶんたくさん子どもたちが手をあげてくれました。

そこで、子どもたちに、これまでの校長室だよりに書いてきたAAEのことを話してみました。話たといっても、難しいことではなく、『学校に犬がいたら？…』という話をしました。今年は、こんなことを私が考えているということをお話したのです。話しながら子どもたちの表情を見ていると、今までうつむいていた子ども顔をあげて目を輝かせていました。…また、あらためて子どもたちには時期がきたら犬を紹介してきちんと説明しようと思いますが、中には触れ合いたいけれども、アレルギーの問題があって…という子どももいると思います。まずは、犬に対するアレルギーについての質問を近日中に、ご家庭にしたいと考えています。その際はどうかご協力ください。

昨日、かつて我が家の犬がお世話になっていた、(ちなみに今は 9 ヶ月の幼犬が修行に？行っています) 訓練士の方と話をすることがありました。そこで、これからはじめてみようとしている「AAE」の取組みのことについて意見交換していたのですが、人間では決して成し得ることのできない素晴らしいもの、子どもたちの「感性」に直接的に働きかけることを必ずや犬はやってくれるというところでお互い納得したところです。

犬が決して私たちがダイレクトに踏み込むことのできない心の中にストレートに働きかけて、先生たちの日々の様々な取組みを、サポートしてくれることに期待しています。

To be continued (次号に続きます)